

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 総合的・実践的な学問分野として言語コミュニケーション文化学の確立を目指す。	→教員の研究成果をネット上で公表。	A	A	A	A	/
2. 変化する国際化社会の中にあって、活躍できる実践力を備えた高度職業人を養成する。	→課程修了者数。進路調査・満足度調査。	A	A	A	A	/
3. 国際的に活躍できる研究者・大学教員を養成する。	→進路調査の実施(研究者数)。国際学会での発表回数。	B	B	B	B	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	言語コミュニケーション文化学の立場から、各教員はそれぞれの研究領域(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)において、活発な研究活動を行い、言語コミュニケーション文化学の確立を図っているが、その成果はネット上に研究業績報告として公開されている。
目標2	言語コミュニケーション文化学を背景とする高度職業人の養成を行っている。2001年開設以降、修士号は285名、博士号(課程博士)は12名が取得している。2012年度については、前期修了生31名、後期修了生の3名(うち博士学位取得者0名、満期退学者3名)の多くが高度職業人となった。
目標3	言語コミュニケーション文化学を専門とする研究者および大学教員の養成を行っている。2001年開設以降、修士号は285名、博士号(課程博士)は12名が取得している。2012年度の前期・後期修了生の34名のうち、5名が大学教員として復帰し、活躍している。
備考	